

risei + trip

vol.
27

WELCOME!

OPEN
CAMPUS

特集

オープンキャンパスで
見つかること。

オープンキャンパスで見つかること。

「自分に合う学校って、どう選べばいいんだろう」
 そう悩む高校生にとって、オープンキャンパスは大切な判断材料の一つ。
 実際に見て、聞いて、体験することで、学校選びのヒントが見えてくる。
 そこにある出会いを探しに、履正社のオープンキャンパス取材した。



photographs by Naohiro Kurashina



1 当日は、教員と在校生の温かな出迎えから始まる 2 スタッフとして参加していた安田さん(右)と倉田さん(左) 3 「理学療法士が活躍できる領域は、医療機関やスポーツ現場などさまざま」と話す木下拓真先生 4 ATコースの体験授業ではテーピングに挑戦。在校生が細かく丁寧に指導する

夏を目前に、進路を本格的に考え始める高校生たち。この日のオープンキャンパスにも多くの高校3年生が来校し、校内は朝から活気に包まれていた。
 そんな参加者たちを迎えていたのが、理学療法学科3年生の安田琳香さんと倉田真希さんだ。かつてはこの二人も、進路に悩む高校生だった。そんなときに参加した本校のオープンキャンパスが、進路を決める大きなきっかけになったという。

「ここなら頑張れる」と思えた瞬間。

安田さんは他校としっかり比較するため、履正社のオープンキャンパスに2回参加した。

「2回目は先生も覚えてくれていて、体験授業ではなく特別に個別相談をさせてもらいました。相談したときに、『学校それぞれに特徴があるから、自分に合う場所を納得して決めてね』と寄り添ってくれて。無理に勧めるのではなく、私の意思を大切にしてくれる先生の姿勢を見て、『この先生たちなら入学後も安心して頼れる』と感じました。帰り道に母から『他の学校よりも楽しそうだったね。それが答えなんじゃない?』と言われて、進学を決めました」

倉田さんの背中を押したのは、オープンキャンパスで出会った教員や在校生の言葉だった。

「高校は部活に打ち込んでいて、勉強に自信がありませんでした。勉強について在校生に質問してみると、『私も部活ばかりで勉強は全然だったけれど、好きな分野なら頑張れるよ』と話してくれて、自分の境遇と重なったんです。先生からも『入学する人たちはみんな医療分野を初めて学ぶ。スタートラインは同じだよ』と言われて、不安だった気持ちが前向きになりました。体験授業では、先生と在校生が気軽に言葉を交わす様子も印象的で、『ここなら安心して、4年間頑張れる』と思い、すぐに受験しました」

二人は入学後、同じ目標を持つ仲間として支え合って学んできた。そして、自身が感じた安心感を今度は高校生に届けようと、スタッフとしてオープンキャンパスに参加している。

体験してわかる、自分に合う学び。

こうした教員や在校生との交流に加え、体験授業もオープンキャンパスの大きな魅力だ。本校では毎回、各学科・コースの体験授業を実施している。午前と午後の2度、参加が可能で、複数の分野を比較しながら進路を考えることができる。

この日の理学療法学科の体験授業では、参加者同士で身体機能評価を行った。前屈や後屈の動きを見ながら、感覚を頼りに身体の状態を探っていく。その後、腰の動きを改善するストレッチを実践し、再び前屈を行うと、より深く曲がるようになった人がいた。身体の変化を目の当たりにし、驚きの声が上がっていた。

一方、アスレティックトレーナー(AT)コースでは、在校生のアドバイスを受けながら足首のテーピングに挑戦していた。テーピングを施す側と受ける側を体験し、真剣な表情で何度も巻き直ししながら、一つひとつの手順を確かめる。巻く難しさや固定された際の安定性を実感し、ATの仕事の一端に触れていた。

また、本校では日曜日のオープンキャンパスに加え、競技スポーツ学科の競技体験会も実施している。入学前に体験会へ参加した在校生からは、『設備や練習の強度、監督・コーチの指導方針、チームの雰囲気等を体感できる。安心して進路を決められた』という声も聞かれた。

オープンキャンパスは学校を「知る」だけでなく、自分の未来を具体的にイメージするきっかけにもなる。実際に足を運んだ先に、「ここで頑張りたい」と思える出会いが待っているかもしれない。